

第3学年国語科学習指導案

日 時：令和4年7月6日（水）5時間目
対象学級：二戸市立金田一中学校 3年A組
指導者：紫葉ゆかり

1 単元名 和歌からいにしへの心を感じる

教材名 「万葉・古今・新古今」（東京書籍 国語3）

2 単元の目標

(1)歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。

〔知識及び技能〕(3)ア

(2)和歌の構成や表現の仕方について評価することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」(1)ウ

(3)言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

3 単元について

(1) 生徒について

ア 生徒は第1学年において伊曾保物語や竹取物語など、現代語とは異なる表現や人間の心のありようについて学習した。第2学年では、枕草子や徒然草等の作品から、筆者のものの見方や考え方についての学習を行っている。

イ 3学年での既習事項として「俳句の読み方、味わい方」では、季語や切れ字などの表現の工夫から感じ取れる情景や作者の心情を、グループ活動を通して想像してきた。また、作者の表現の仕方について評価し、鑑賞文を書く活動にも取り組んだ。

(2) 教材について

ア 三大和歌集である「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」は、同じ和歌という形式であるが、それぞれの時代を反映し、特徴が異なっている。作者の立場や置かれた状況等、背景を知ることによって作者の意図や心情理解をより深められると考える。

イ 自然に感動する心や家族や恋人に対する思いなど、時代の変化のなかでも変わらない人間の普遍的な部分を感じ取ることで、古典や和歌の価値に気付かせるのに有効だと考える。

ウ 三十一文字という短い言葉で思いを伝えるために、どんな表現の工夫がされているかを捉えるのに適した教材である。

(3) 指導について

ア 本単元における言語活動について

○心に残った和歌を選んで鑑賞文をまとめる。

・歴史的仮名遣いを確認しながら音読を繰り返し行って正確にすらすら読めるようにし、和歌の定型のリズムや表現を味わわせる。

・鑑賞文を書くために必要な視点を提示し、和歌の情景や作者の心情に迫れるようにする。

イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫点等

心に残った作品、良さが伝わると思う和歌を選び、その良さを具体的に表現できるように、グループ活動を通して考えを共有したり多様な視点から読んだりすることで、考えに広がりをもたせたい。

(4) 校内研究との関わり～「注視する5項目①～⑤」への取組

- ① 生徒が自分で調べたことや考えたことを、分かりやすく文章に書く指導の研究
生徒の思考を促すために視点を示したり、考えを共有する場を設定したりすることを通して、自分の言葉で文章を表現できるようにしている。
- ② 生徒自身が、学習の成果（または課題）を実感できる振り返りの研究
単元の目標や学習の流れがわかるように、単元ごとに振り返りシートを作成している。単元を振り返る際には、目標に対してどこまで迫れたかを学習過程とともに自己評価できるようにしている。
- ③ 生徒の間違いを認める雰囲気を作り、その中で授業を進める工夫
生徒が自分の考えをもつこと、発言や発表することを評価し、改善につながるよう支援したり、間違いの価値を示したりして全体での共有を図るようにしている。
- ④ 諸調査の分析結果から見えた生徒のつまずきに対応した授業改善
各単元学習の前に、諸調査でつまずきが見られる問題を確認し、単元テストで定着を図る必要がある領域や問題を確認するようにしている。
- ⑤ 授業内容の理解を促進する家庭学習の課題（宿題）と、計画的な課題提示
その日の授業で学習した範囲のワークに取り組みせ、学習内容の理解及び定着を図っている。また、予習してきたことをもとに授業展開を行い、授業と家庭学習のサイクルを確立させるようにしている。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。 (3)ア	①「読むこと」において、和歌の構成や表現の仕方について評価している。 C(1)ウ	①進んで、和歌の特徴的な表現を感じとってその良さを考え、見通しをもって、意味や技法などに注意しながら鑑賞文を書こうとしている。

5 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい（■）・主たる学習活動、研究とのかかわり①～⑤	重点	◇評価規準〈評価方法〉 （*指導に生かす評価）
1	■古今和歌集「仮名序」を読み、当時の人々の和歌への思いを知る。 ・和歌の本質や三大和歌集について知る。 ・和歌を音読して和歌のリズムを味わう。 ⑤家庭学習の計画的な課題提示	主 ①	*仮名遣いや和歌のリズムを意識して音読しているか確認。（主①）
2	■万葉集のそれぞれの和歌が詠まれた背景や作者の心情について考える。 ・それぞれの和歌の大まかな内容を捉える。	思 ①	*叙述をもとに、それぞれの和歌の意味を考えたり情景を考えたりしているか確認。（思①）

	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌の修辞を確認し、表現を高める技法について知る。 ■古今和歌集、新古今和歌集から心に残った和歌を一首選ぶ。 <p>③間違いを認める雰囲気づくり</p>		
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ■古今和歌集・新古今和歌集のそれぞれの和歌が詠まれた背景や作者の心情について考える。 ・背景や詠み込まれた心情について、自分の考えと比べながら、グループで意見を述べ合う。 <p>③間違いを認める雰囲気づくり ⑤家庭学習の計画的な課題提示</p>	思 ①	
4	<ul style="list-style-type: none"> ■和歌の意味や使われている技法に注意して鑑賞文をまとめる。 ・鑑賞文を手順に沿って書く。 <p>①わかりやすく文章に書く指導</p>	主 ① 思 ①	<p>◇これまでの学習を確かめながら、自分の感想や考えなどと合わせて鑑賞文にまとめているか確認。(主①)</p> <p>◇自分の選んだ和歌について、表現の仕方や工夫を評価しているか確認。(思①)</p> <p>〈観察・ワークシート〉</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ■学習のまとめをする。 ・単元テストに取り組む。 ・単元の目標に迫ることができたか、視点をもとに学習したことを振り返り、自分の言葉でまとめる。 <p>②成果を実感できる振り返り ④つまづきに対応した授業改善</p>	知 ①	<p>◇和歌が詠まれた背景や作者の心情、言葉の意味や表現技法などについて自分の言葉でまとめているか確認。(知①)</p> <p>〈振り返りシート〉</p>

6 本時の指導（3時間目／全5時間）

(1) 目標

古今和歌集・新古今和歌集から心に残った和歌を一首選び、和歌が詠まれた背景や作者の心情について考えることができる。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点（◇評価） 研究とのかかわり①～⑤
導 入	<p>1 単元の目標を確認する。</p> <p>2 学習課題の提示</p>	<p>選んだ和歌の魅力は何か、明らかにしよう。</p>

展開 30 分	<p>3 個人で鑑賞する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「山里は冬ぞさびしさまさりける人目も草もかれぬとおもへば」 「うたたねに恋しきひとを見てしより夢てふ物は頼みそめてき」 「春の夜の夢のうき橋とだえして峰にわかるる横雲の空」 「道のべに清水ながるる柳かげしばしとてこそ立ちとまりつれ」 「さびしさはその色としもなかりけり真木たつ山の秋の夕暮」 「玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることの弱りもぞする」</p> </div> <p>視点の提示 → 表現技法、背景、心情、テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使われている表現技法や表現の仕方にはどんな効果があるか。 ・使われている言葉からどんな情景や心情が伝わってくるか。 <p>4 グループで鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流をもとに参考になった意見をメモしながら聞く。 <p>5 全体で交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良いと思った表現から伝わってくるものが何かを、言葉で表現させるようにする。 <p>①ア 自分の考えを表現する場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の考えを出し合い、交流させる。 <p>◇「読むこと」において、和歌の背景や作者の心情について考え、評価しているか確認。</p> <p style="text-align: right;">〈ワークシート・観察〉</p> <p>③ア 主体的に自由に話せる雰囲気づくり</p>
	終末 7 分	<p>6 学習の振り返りを行う。</p> <p>7 家庭学習と次時の学習内容を確認する。</p>